

早期胃癌術後の定期検査で偶然発見 された副腎原発悪性リンパ腫の1例

あみ さき まさ たか まつ ぼら たけし
網 崎 正 孝¹⁾ 松 原 毅²⁾
く もり こう じ つぐ
久 守 孝 司²⁾ 田 島 よし 証²⁾

キーワード：副腎悪性リンパ腫，副腎偶発腫瘍

要 旨

副腎偶発腫として発覚した悪性リンパ腫の1例を報告する。症例は75歳の男性。早期胃癌に対する術後6年目のスクリーニングCT検査で初めて右副腎に径3cm大の腫瘍を指摘された。PET検査で右副腎および大動脈周囲リンパ節に高集積を認め、副腎原発腫瘍の診断で右副腎摘出術および大動脈周囲リンパ節サンプリングを施行した。その結果、いずれも病理組織学的にホジキンリンパ腫（混合細胞型）と診断された。副腎悪性リンパ腫は稀な疾患であるが、その治療には正確な病理診断が要求される。副腎の偶発腫瘍を発見した場合、副腎悪性リンパ腫も念頭にいれ、リンパ節生検等を含めた検索が必要と考える。

はじめに

画像診断技術の向上に伴い、偶発に発見される副腎原発腫瘍が増加している。今回われわれは、早期胃癌術後の定期検査にて発見された極めてまれな片側性副腎悪性リンパ腫の1例を経験したので報告する。

症 例

症例：75歳，男性

主訴：特になし

既往歴：65歳時に早期胃癌（pStage IA）で幽門側胃切除術を施行される。

現病歴：胃切除後、定期的に外来を受診していた。1年前の定期外来診察の際に施行された腹部CT検査では異常を認めなかったが、本年の腹部CTで右副腎の腫大を認め、精査加療目的に当科紹介となった。

身体所見：身長168cm，体重53.0kg。表在リンパ節は触知せず。そのほか特記すべき所見を認めなかった。

入院時血液生化学的検査所見：ヘモグロビン9.8mg/dl，血小板11.7万/ μ lと軽度の貧血と血小板減少を認めたが、副腎内分泌検査値ならびに腫瘍マーカーはすべて正常であった。

Masataka AMISAKI et al.

1) 島根大学医学部卒後臨床研修センター

2) 同 消化器・総合外科

連絡先：〒693-8501 出雲市塩冶町89-1